

1 目指す学校像

生徒一人ひとりを大切に、保護者や地域に信頼され、生徒及び教職員が誇りと自信が持てる学校

2 本年度の教育目標

(1)基礎学力の定着と学力の向上 (2)キャリア教育の実践と進路保障 (3)基本的な生活習慣の確立  
 (4)豊かな心をはぐくむ教育の推進 (5)国際理解教育の推進 (6)部活動の活性化と教育環境の整備  
 (7)家庭や地域と連携、開かれた学校づくりの推進

3 評 価

(2-1)

項 目	昨年度の課題	本年度の目標	目標達成のための手だて	自 己 評 価	学校関係者評価	今後の課題		
教育課程・学習指導	・生徒数減少の中、進路実現が可能なクラス編成及び効果的なコース・科目選択が可能な仕組みを検討する。	・生徒数確保に全力を注ぎ、効果的な教育課程の編成が可能となるよう努める。 ・コース制・選択科目の充実、進路希望の早期把握等、進路実現を目指したクラス編成を構築する。	・中高連携による交流事業をより充実させるとともに、広報活動をより一層努め生徒数確保を図る。 ・進路実現を目指したクラス編成を構築するため、コース・科目選択を行う日程・説明などをシステム化する。 ・さまざまな機会を利用して、生徒一人ひとりへコース選択、科目選択が行えるように情報提供や周知を行う。	・中高連携による交流事業として防災学習、中高弁論大会、未来こども議会など、積極的に共に活動を行い、充実した交流が行えた。 ・学校通信「清水で輝く」を発行し、学校の活動と生徒の活躍を中学校に広報することができた。 ・多様な生徒の進路希望に対応するためのコース制は一定成果を出すことができています。	B	・「お子さんを、本校に入学させて良かったと思っていますか」に対する肯定的な回答の保護者の割合は86.5%（1年の保護者は72%、2・3年の保護者は90%以上）である。これは、学年が上がるごとに本校への理解度が増しているともとれるが、入学段階での理解度が低いのはまだまだ魅力発信が弱いと受け取れる。	B	・進路実現が可能なクラス編成のための生徒数確保が最重要課題である。
	・家庭学習の習慣が身に付くよう、5教科での課題などを検討し、学校として取り組むためのシステムの構築を行う。	・家庭学習の習慣を身に付けさせる。 ・補力補習の強化、不合格科目を次の学期へ持ち越させないよう指導を徹底する。	・各学期の不合格科目については長期休業中の補習を義務付け、課題や小テストなどにより再評価する。 ・定期考査前から家庭学習計画を作成する。 ・学習課題を検討し、日々の学習時間を増加させる。	・各教科の取組に多少の差はあるものの、基礎学力の向上の成果は一定得られている。 ・「計画的に学習に取り組んでいる」の肯定的な回答は昨年度ほぼ同じである。家庭学習時間は、日々の課題を継続的に実施したことで、31分以上の達成率は、20%から30%へ増加したもののまだまだ不十分である。	B	・「お子さんは、普段の日に家庭学習をしている」に対する肯定的な回答の保護者の割合は、昨年度より3.6p上昇したが、全体の45.3%である。 ・計画的に5教科からの家庭学習の課題を出すことを保護者に知らせ、協力を得る方策なども必要である。	B	・本年度の家庭学習の取り組みを踏まえ、5教科が計画的に課題を作成、実施した後のチェックと評価を行う必要がある。
	・基礎学力診断テストやスタディサブリの活用が、効果的に実施できるように検討する。	・基礎学力診断テストを活用し、生徒の学力の把握と基礎学力の向上に努める。 ・数学の学び直しにおいて、スタディサブリを効果的に活用する。 ・進路目標を早期に決定させ、目標に沿った学習活動を指導する。	・基礎学力診断テストや定期考査の結果を生徒自身がポートフォリオ（3年間の長期目標）へ記載し、自分自身で分析や課題の把握を行うことで、自己目標を常に意識し、授業や部活動へ取組めるようになる。 ・スタディサブリを数学の学びなおしに導入するとともに、放課後学習支援員を導入し、生徒のサポートの充実を図る。	・「将来の夢や目標を持っている」、「高校卒業後の進路を決めている」の項目では、それぞれ70.9%、76.6%と回答しているが、日々の取組・学習に繋がっていないのが現状である。 ・スタディサブリを導入し、パソコンルームの整備や、放課後生徒が学習できるように学習支援員を配置するなど、環境整備は十分行えた。今後はより自主的に学習できるように仕掛けていく必要がある。	B	・「子どもは自分の夢や目標を実現するための努力をしている」、「学校では一人ひとりの生徒の夢や希望を大切にした指導をしている」に対する肯定的な回答の保護者の割合は、それぞれ58.1%、81.5%である。 ・子どもの努力と学校の指導が有機的に結びつき、より効果を高める策を考える必要がある。	B	・ポートフォリオの記入項目など、検討し次年度以降精選する必要がある。 ・スタディサブリの取組から放課後の個別補力指導への転換をすることによって、学び直しの強化をできるようにする。

3 評 価

(2-2)

項 目	昨年度の課題	本年度の目標	目標達成のための手だて	自 己 評 価		学校関係者評価	今後の課題
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路に関する情報を早めに提供することや、タイムリーに提供するために、3年間を見通した計画を構築する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国模試等を積極的に受験させ、自己の力を把握し、努力させるよう指導助言を行う。</li> <li>3年間を見通した進路LHなどの計画を作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路LHの充実、補習・全国模擬試験への積極的参加を促す。</li> <li>就職・進学ともに各種資格試験への挑戦をさせることで成果を実感させながら希望進路の実現を図る。</li> <li>今まで3年生の1学期までに実施していた内容を、2年生の3学期までに終了し、3年生へ向けての0学期という位置づけを徹底する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学校で生徒一人ひとりに対する進路指導が適切に行われている」、「学校では生徒に対して進路選択に関する情報選択に関する情報提供が適切に行われている」に対する肯定的保護者の回答は、それぞれ81.5%、81.7%と昨年度より高評価であるが、より個々への進路指導充実を望みたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体への進路指導と、個別での進路指導のバランスを今以上に充実させる。</li> <li>進路希望決定の時期をより早めるための啓発を1、2年生段階で取組みたい。</li> </ul>	
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>服装、頭髪などの指導を全教職員が共通理解のもと、さらに徹底する。特に女子のスカートの指導は預かり指導も検討しながら粘り強く指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な生活習慣の確立を図る。</li> <li>登校時指導を徹底し、遅刻・欠席の削減を図る。</li> <li>生徒会活動、ホームルーム活動、部活動の活性化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導部を中心に全教職員が協力し、毎日、登校時昇降口指導を実施し、毎日生徒の様子を確認する。また、月の初めの週は、生徒会も早朝指導を行う。</li> <li>生徒会を中心に、行政機関や警察、地域の各種団体と連携を図り、地域貢献活動の強化を図る。</li> <li>小さな出来事を見逃さず、機動的に全校集会や学年集会を実施し、指導を徹底する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学校では生活指導（頭髪、服装等）が適切に行われている」に対して肯定的な回答の保護者の割合は89.8%、同じ質問に対して、生徒は88.6%と回答している。保護者・生徒との信頼感のなか生徒指導が行われている。</li> <li>交通安全キャンペーンなど、生徒会が中心に地域で積極的に活動し貢献することができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全教職員、生徒会が中心となり、今後も登校時の昇降口指導を実施し、遅刻0を目指して指導する必要がある。</li> <li>また、女子生徒のスカート、携帯電話の校内使用禁止などの指導を、継続して行う必要がある。</li> <li>今後も地域貢献に取組み、生徒会活動をより充実させたい。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前指導の徹底と、継続した啓発を行い、更なる交通安全教育の徹底を図る必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通安全教室の開催を行い、交通モラルの意識高揚を図る。</li> <li>生徒理解を深め、生徒の心のサインを見逃さず、生徒支援システムを構築し、カウンセリング体制の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>二輪車安全運転教室を実施し、バイク・自転車の定期的な点検を実施する。</li> <li>交通違反者については、保護者同伴で講習会を実施し指導する。</li> <li>特別支援コーディネーター、人権担当教員、養護教諭、各学年部の連携を図り、生徒支援体制の組織化を図る。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学校では、交通安全や防災教育等の指導が適切に行われている」に対する肯定的な回答の保護者の割合は87%である。</li> <li>「お子さんには、安心して話したり相談したりできる先生がいる」に対する肯定的な回答の保護者の割合は71.9%と昨年度より5.5pアップであるが、まだまだ低い評価である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通安全に関する指導は継続して徹底していくことが必要である。</li> <li>生徒支援会のシステムは今年度4年目となり、システム化されてきたが、次年度も更に充実させる必要がある。</li> </ul>	
保護者・地域住民等との連携（開かれた学校づくりの推進）	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者へのホームページの周知を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PTA総会への参加率向上を図る。</li> <li>魅力発信のため広報を充実させる。</li> <li>地域との連携強化、地域行事への積極的参加を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PTA総会、保護者個別面談を組み合わせるなどの工夫をする。</li> <li>学校通信を発行し、高校の魅力発信を行う。</li> <li>ホームページへの生徒の活動をタイムリーに掲載し情報発信を行う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学校のホームページを見たことがある」に対する肯定的な回答の保護者の割合は昨年度より2.2pアップだが、まだ22.5%である。</li> <li>一昨年度ホームページをリニューアルしたにもかかわらず、見ている保護者の割合があまり変化がない。何らかのPRを行い、子どもたちの日々の様子を見てもらうようにする必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が地域で活動する場を積極的に提供し、その活動を広報する。</li> <li>広報の充実を図る。</li> </ul>	